

令和 5 年 5 月 11 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00160

研究課題名(和文) 中世イベリア半島のキリスト教美術とその集合的記憶：マイノリティの役割の(再)評価

研究課題名(英文) Christian Art in the Medieval Iberian Peninsula and its collective memories:
(re) evaluating the role of Muslim and Jewish Minorities

研究代表者

久米 順子 (KUME, Junko)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授

研究者番号：60570645

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題は、中世イベリア半島のキリスト教王国で制作された美術と、当時の宗教的文化的マイノリティ集団との関係に焦点をあてた。ムスリムやユダヤ教徒は、マイノリティといえども、それぞれのコミュニティの中で独自の文化伝統を保っていた。これら三宗教は、社会的に対立していたと捉えられがちである。確かにキリスト教美術にはマイノリティ集団への敵視があからさまな図像も認められるが、その一方で、彼らの美術の一部を受容し、自らの文化の中に組み込んでいく動きが確認できる。とりわけ写本の図像や装飾は、これら三宗教の文化が交錯する地点であるといえる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中世イベリア半島といえば、高校の世界史で学習するキリスト教諸王国の対イスラーム「レコンキスタ(再征服運動)」やユダヤ教徒追放令が想起され、キリスト教徒、ムスリム、ユダヤ教徒は中世を通じて争い合っていたというイメージが定着しているように思われる。しかしながら、当時の美術作品を分析すると、対立は彼らの複雑な関係の一側面に過ぎないことが理解される。文化交渉は、政治的経済的な対立や分断と無関係ではないが、必ずしも一致しない。中世イベリア世界の異文化交渉の様相が、現代社会における多文化共生へのヒントに繋がり得る点に、本研究課題の社会的意義が見出されよう。

研究成果の概要(英文)：This research project focused on the relationship between art produced in the Christian kingdoms of the medieval Iberian Peninsula and the religious and cultural minority groups of the time. Muslims and Jews, though minorities, maintained their own cultural traditions within their communities. These three religions are often perceived as being in social conflict. While it is true that some images in Christian art are overtly hostile to minority groups, there is also a movement toward accepting some artistic elements of others and incorporating them into one's own culture. In particular, the iconography and decoration of manuscripts can be said to be the point at which the cultures of these three religions intersected.

研究分野：西洋美術史

キーワード：中世イベリア半島 異文化交渉 中世キリスト教美術 スペイン美術 ムデハル美術 イスラーム美術 ユダヤ美術

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

申請者は、博士論文執筆時以来、一貫して中世イベリア半島の美術における異文化干渉の問題に関心を抱き続けてきた。イベリア半島の中世は、一般的に、イスラームが北アフリカから半島へ侵入した 711 年から、カトリック両王が最後のイスラーム王朝であるナスル朝グラナダ王国を無条件降伏させた 1492 年までを射程とする。この数世紀間の捉え方として、一方では、キリスト教徒の「レコンキスタ」(対イスラーム国土回復運動)を軸に据え、中世地中海を席卷した十字軍のイベリア半島バージョンとして、キリスト教徒、ムスリム双方の聖戦意識に基づく宗教的憎悪と対立を強調する解釈が行われてきた。その一方、キリスト教、イスラーム、ユダヤ教の三つが宗教的寛容の精神を基調とする平和的共存を謳歌した一種のユートピアという見方が、とりわけ近年の一部の欧米の研究者により提示されてきた。

しかし、美術作品を通して中世イベリア半島を考えてきた申請者にとって、このような単純化された二項対立的スペイン中世社会観こそが今や早急に乗り越えられるべきであると思われる。そしてそのためには、異なる宗教・文化グループ間の交渉の歴史的事例を稠密に積み上げていくことが必要である。同時に、こうした対極的な中世解釈がなされてきた時代背景を視野に入れながら、スペイン社会の集合的記憶の形成と変遷の過程そのものが再考されるべきと考える。なぜならば、ムスリムとユダヤ教徒というキリスト教徒からみた「異教徒」たちは近代の幕開けにおいてイベリア半島から完全に追放されたため、彼らが制作した美術・建築はいわば正当な「相続者」を失ったにもかかわらず、現代のスペインは自らの社会の集合的記憶のなかにマイノリティ集団の美術的特質を組み込んできたばかりか、ときにはそれこそがスペイン美術の本質とする主張さえ叫ばれてきたからである¹。

¹ 本研究計画の発案にあたり、以下の問題意識と研究手法に刺激を受けた。田中英資『文化遺産はだれのものか トルコ・アナトリア諸文明の遺物をめぐる所有と保護』春風社、2017 年。

2. 研究の目的

本研究課題の目的は、中世イベリア半島のキリスト教美術・建築のうち、キリスト教圏に居住したムスリムとユダヤ人が制作に関与した作品を分析し、宗教的文化的マイノリティ集団が西欧中世美術に果たした役割を再考する、そうした宗教的文化的マイノリティ集団の関与が、19 世紀以降今日までのスペイン社会においてどのような評価の変遷を遂げてきたのか、スペインという国の集合的記憶の形成にいかに関わってきたのかをスペイン史・スペイン美術史をめぐる言説の分析から明らかにする、の 2 点である。具体的な中世美術作品の研究と現代の視野に立った史学史的考察を、段階的にはなく車の両輪のように並行して進めることで、先行研究の少ない個別作品への知見を深めると同時に、「多文化共生」が謳われる今日の社会に、宗教的文化的マイノリティの社会参画や文化・記憶の継承を考える上での一つのモデルケースを提示することを試みようとするものである。

3. 研究の方法

上述の研究目的については、ムデハル(キリスト教支配下のムスリム)工人がキリスト教徒の注文主のために制作した作例ならびに彼らがユダヤ教徒の注文主のために制作した作例、ユダヤ教写本挿絵などを取り上げ、キリスト教美術との相互の関連性を考察し、研究目的については、スペイン社会の集合的記憶の形成における宗教的文化的マイノリティ集団の関与に対する評価の変遷とその歴史的背景を精査するというのが当初想定した研究方法であった。

しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により、スペインでの作品調査が不可能となったばかりか、国内の図書館での文献調査も不可能となったため、研究計画の変更を余儀なくされた。具体的には、ムデハル工人による建築や壁画といった現地調査が不可欠な作例から、インターネットで最低限の図像収集が可能な写本に研究対象をシフトし、写本挿絵におけるマイノリティ表象を扱うこととした。インターネット注文や郵便での取り寄せを使って本研究課題に必要な文献をある程度集めることができたことは幸いであった。再延長が認められた 2022 年の夏に、ようやくスペインでの資料収集が可能となり、未見の文献資料を中心に補足的な調査を行うことができた。

4 . 研究成果

本研究課題は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行による社会環境の変化の影響を研究遂行の過程で大きく被ることとなった。そのため、当初の見込みとは方向性が異なるが、以下のような成果が得られた。

- ・当初の研究目的 に関連する近年の複数の研究書について、日本語・スペイン語で新刊紹介・書評を執筆した。
- ・中世イベリア半島で制作されたキリスト教美術写本の代表的な作例であるベアトゥス写本に関する近年の研究動向をまとめた欧文論文の翻訳を国内学術誌に発表した。
- ・イベリア半島のキリスト教美術における異教徒討伐の図像がどのように成立し、中世に展開して初期近代に継承されていったのかを写本挿絵を通じて検討した。
- ・中世イベリア半島で栄えたキリスト教王国の重要な一王国であるアラゴン連合王国史に関する研究論集の翻訳・編集に参画した。
- ・ムデハル美術を扱った欧文論文の共訳を行った。
- ・コロナ禍により長期間自宅で過ごす中で、日本における西欧中世美術研究の位置づけを改めて省察し、その歴史的経緯を西欧の研究者に伝えるべく、論文としてまとめて西欧中世学研究的の英文ジャーナルに投稿した（2022年7月20日付け Acceptance letter 受領済み、2023年号に掲載予定）。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Junko Kume	4. 巻 17
2. 論文標題 Medieval European Art History in Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Imago Temporis: Medium Aevum	6. 最初と最後の頁 in print
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 久米順子	4. 巻 14
2. 論文標題 【新刊紹介】A. VILLA DEL CASTILLO, Talleres de escultura cristiana en la Peninsula Iberica (siglos VI-X): Analisis arqueologico, 2vols., Oxford, BAR Publishing, 2021	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 西洋中世研究	6. 最初と最後の頁 240
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Junko Kume	4. 巻 23 (1-2)
2. 論文標題 Resena de Diana Arauz Mercado, Pinceles olvidados. Mujeres artistas (siglos X-XVI), Zacatecas, Universidad Autonoma de Zacatecas, 2020.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Estudios de Historia de Espana	6. 最初と最後の頁 332-334
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 久米順子	4. 巻 13
2. 論文標題 【新刊紹介】L.RODRIGUEZ PEINADO y F.de A. GARCIA GARCIA (eds.), Arte y produccion textil en el Mediterraneo medieval, Madrid, Polifemo, 2019 & N.VRYZIDIS (ed.), The Hidden Life of Textiles in the Medieval and Early Modern Mediterranean: Contexts and Cross-Cultural Encounters in the Islamic, Latinate and Eastern Christian Worlds, Turnhout, Brepols, 2020.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 西洋中世研究	6. 最初と最後の頁 159-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久米順子	4. 巻 13
2. 論文標題 【新刊紹介】L.U. AFONSO & T.MOITA (eds.), Sephardic Book Art of the Fifteenth Century, London-Turnhout, Harvey Miller, 2020.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 西洋中世研究	6. 最初と最後の頁 124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久米順子	4. 巻 2020年春
2. 論文標題 美術家がたちあがるとき	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ピエリア	6. 最初と最後の頁 24-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 アリシア・ミゲレス著、久米順子訳	4. 巻 20
2. 論文標題 ベアトゥス写本研究の現在：近年の研究成果に照らして	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 スペイン・ラテンアメリカ美術史研究	6. 最初と最後の頁 29-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久米順子	4. 巻 11
2. 論文標題 【新刊紹介】F. J. MORENO (ed.), El franquismo y la apropiación del pasado. El uso de la historia, de la arqueología y de la historia del arte para la legitimación de la dictadura, Madrid, 2017	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 西洋中世研究	6. 最初と最後の頁 183-184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久米順子	4. 巻 11
2. 論文標題 【新刊紹介】J. CASTANO (ed.), ?Una Sefarad inventada? Los problemas de interpretacion de los restos materiales de los judios en Espana, Barcelona, 2017	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 西洋中世研究	6. 最初と最後の頁 169-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久米順子	4. 巻 70
2. 論文標題 【書評】「伊藤喜彦著『スペイン初期中世建築史論 十世紀レオン王国の建築とモサラベ神話』」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 建築史学	6. 最初と最後の頁 106, 114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久米順子	4. 巻 10
2. 論文標題 【新刊紹介】Rose Walker, Art in Spain and Portugal from the Romans to the Early Middle Ages. Routes and Myths	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 西洋中世研究	6. 最初と最後の頁 254, 254
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 久米順子
2. 発表標題 「キリストの戦士」としての聖ヤコブ像にみる排除と包摂：拡大するイスパニア世界と「サンティアゴ・マタモロス」
3. 学会等名 「16世紀イスパニア世界における帝國的な交通空間と「境界的」美術の形成」科学研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 久米順子
2. 発表標題 Miles christiとしての聖ヤコブ像にみる排除と包摂:中世から近世のイスパニア世界における「サンティアゴ・マタモロス」をめぐって
3. 学会等名 「16世紀イスパニア世界における帝國的交通空間と「境界的」美術の形成」研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Junko Kume
2. 発表標題 Algo mas que Zen
3. 学会等名 Ponencia Magistral del Ciclo Encuentros Internacionales, Universidad de Sevilla (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久米順子
2. 発表標題 カトリック王と宗教的マイノリティ集団:写本挿絵にみるカスティーリャ王国アルフォンソ10世とその宮廷
3. 学会等名 早稲田大学中世・ルネサンス研究所「中世スペインの王権と宗教的マイノリティー」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Junko Kume
2. 発表標題 Arte en el Toledo medieval: convergencias y divergencias
3. 学会等名 The 8th International Medieval Meeting Lleida (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計6件

<p>1. 著者名 フロセル・サバテ著、阿部俊大監訳、久米順子、亀谷学、向井伸哉、内村俊太、黒田祐我、中嶋耕大、久木正雄訳</p>	<p>4. 発行年 2022年</p>
<p>2. 出版社 明石書店</p>	<p>5. 総ページ数 368</p>
<p>3. 書名 アラゴン連合王国の歴史</p>	
<p>1. 著者名 岡田裕成編著、伊藤喜彦、マリア・J・フェリシアノ、久米順子、今井澄子、松原典子、バク・ジョンホ、アルベルト・バエナ・サバテロ、川村やよい著</p>	<p>4. 発行年 2022年</p>
<p>2. 出版社 三元社</p>	<p>5. 総ページ数 336</p>
<p>3. 書名 帝国スペイン 交通する美術</p>	
<p>1. 著者名 大高保二郎監修・著、久米順子、松原典子、豊田唯、松田健児著</p>	<p>4. 発行年 2018年</p>
<p>2. 出版社 NHK出版</p>	<p>5. 総ページ数 390</p>
<p>3. 書名 スペイン美術史入門 積層する美と歴史の物語</p>	
<p>1. 著者名 A. Miguelez Caveró, F. Villasenor Sebastian (eds.), J. Kume, et al.</p>	<p>4. 発行年 2018年</p>
<p>2. 出版社 CSIC</p>	<p>5. 総ページ数 355</p>
<p>3. 書名 Medieval Europe in Motion: la circulación de manuscritos iluminados en la Península Iberica</p>	

1. 著者名 F. Sabate (ed.), J. Kume, et al.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Pages Editors	5. 総ページ数 318
3. 書名 Els animals a l' Edat Mitjana	

1. 著者名 J. Kume (ed.), D. Arauz, C. Bahr, M. Kezuka, Y. Kuroda, M. F. Rios, G. Rodriguez, F. Sabate, S. Satoh, M. Zapatero	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Tokyo University of Foreign Studies-Institute for Global Area Studies	5. 総ページ数 140
3. 書名 Beyond the Seas: A Medievalists Meeting in Tokyo	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------